

映画『ハリー・ポッター』シリーズにおける魔法の描かれ方と主人公の成長

藤田 紗帆

『ハリー・ポッター』シリーズは、イギリス出身の作家である J.K.ローリングによって書かれた、世界的なベストセラー小説である。先行研究の結果、その物語の特徴は、「魔法」と「成長」の描かれ方にあると考えられている。原作を映画化した映画『ハリー・ポッター』シリーズも大ヒットを記録しており、国境を超えて愛されていることから、そこには、原作同様の特徴に加えて、映像作品ならではの魅力も存在すると考えられる。

そこで、本研究は、映画『ハリー・ポッター』シリーズにおける魔法の描かれ方を分析し、魔法の使用と主人公の成長の関係について、視覚的表現の影響も含めて明らかにすることを目的とした。

調査対象は、映画『ハリー・ポッター』シリーズ全8作品とした。調査手法は、まず、金子(2010)の方法を援用し、魔法を内的魔法と外的魔法に類別したのち、内的魔法をさらに生得的魔法と習得的魔法に二分し、それぞれの使用回数を計測した。次に、上瀬、佐々木(2016)の方法を援用し、各種類の魔法使用回数と主人公の主体性が発揮される場面との関係、友人二人の魔法使用回数と援助・被援助関係を調査した。さらに、外的魔法が使われる場面における物語展開への影響と、映画ならではの視覚表現との関連について分析した。

その結果、映画『ハリー・ポッター』シリーズに描かれた主人公の成長は、習得的魔法や外的魔法の使用に密接にかかわっていること、および、登場人物間の援助行動や友人たちとの共行動時間に表されていることが明らかとなった。

習得的魔法については、主人公ハリー・ポッターの使用回数が徐々に増加しており、主人公が様々なことを学び経験することで成長する過程を表していると考えられる。また、習得的魔法と援助行動には、主人公が成長する過程で使用できる魔法が増え、他者への援助が増加するといった関係があると考えられる。また、友人たちとの共行動時間の増減については、当初は周囲に援助される立場であり、次第に援助を必要としなくなり、単独行動が増えるという、主人公の成長過程を反映していると考えられる。さらに、外的魔法については、視覚的に表現されることによって、観客は、言葉だけでなく、映像によって魔法を実感することが可能になり、映画シリーズが世界の多くの国で支持される要因の一つとなったと考えられる。

本研究は、映画『ハリー・ポッター』シリーズ全8作品に調査対象を限ったものではあるが、本研究における調査と分析の結果において得られた知見は、ハリー・ポッター以外の魔法物語やファンタジー小説の映像化に関する研究にも資するものと考えられる。また、今後は、映画のような映像作品と原作小説との比較においても、本研究の方法を援用した分析がおこなわれることが期待される。

(指導教員 辻 泰明)